

《加賀地方花鳥図刺繍壁掛》

昭和三年（一九二八）

刺繍

各総二二九・〇×一三三・〇



昭和三年の大札に際し、金沢市より献上された一对の壁掛である。壁縮緬と呼ばれるしぼの強い絹織物に、刺繍によって、右には霊山として名高い白山に見られる高山植物とライチョウ、左には松竹梅に加賀平野の鳥五十種を取り合わせて表している。縁には「萬歳」の文字と花文を染め抜く。図案は、白山の高山植物とライチョウを玉井猪作（敬泉、一八八九〜一九六〇）が、加賀平野の鳥類を市川昌

徳（生没年不詳）が担当したと伝えられている。玉井は白山を踏破し、その自然をこよなく愛した画家であり、一方の市川は、在野の鳥類研究者でもあった。このうちのトキとライチョウは、いずれも江戸時代までは加賀藩によって手厚く保護されていた鳥であるが、白山のライチョウは昭和十年代には絶滅し、当時は各地にわずかに生き残っていたトキも同じ途をたどることになった。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

鳥の楽園 — 多彩、多様な美の表現

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 68

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年三月二十一日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonaru Shozokan